

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1574番地		
自己評価作成日	平成27年8月27日	評価結果市町村受理日	平成28年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成27年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関に隣接しているため、入居者の急変時には迅速に対応出来る。また、介護員等の痰吸引の施設登録を行い医療度の高い方の入居も可能である。「看取り」を行い最期まで家族やスタッフに見守られながら終末期をすごせるようにしている。また、現在は玄関、各階入口は夜間のみ施設で身体拘束ゼロの実践ができています。何気ない毎日を安心して過ごせるホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にある2階建てのホームで、中に入ると木目を基調とし、南向きに大きく作られた窓からは自然の光が差し込む等、解放感のある構造になっており、入居者が落ち着いて生活できる環境が整えられている。また、母体の医療機関と、急変時や看取りについて医療面での迅速な対応・協力体制を築いている。職員の教育についても、研修会を定期的に行い、入居者の尊厳を守った支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	1F	2F			1F	2F	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供しつづける」GH理念「喜び支え合いを力に」を毎月のカンファレンスで呼称し確認している。	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供しつづける」GH理念「喜び支え合いを力に」を毎月のカンファレンスで呼称し確認している。	理念について、入職時に新人研修を行っている。また、玄関への掲示や、毎月のカンファレンスの際の唱和や理念を交えた検討をする等して、意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	轟木地区の方が入居された事がきっかけとなり、退所後も家族がホームへ来所し、交流ができています。	轟木地区の方が入居された事がきっかけとなり、退所後も家族がホームへ来所し、交流ができています。	ホームの行事に、地域の方を招いて交流したり、認知症の相談を受けることもある。しかし、地域の一部の方との関係が主である。	地域で、認知症研修会開催も検討されており、住民とのコミュニケーションを図る機会を増やすことで、地域との交流が広がることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトで、地域向けに「認知症」についてや、生活についての発表ができるように現在取り組んでいる。	認知症キャラバンメイトで、地域向けに「認知症」についてや、生活についての発表ができるように現在取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、行っている。家族の参加も多く、家族間の交流の場にもなっている。年間の事故報告や、認知症勉強会なども行ってホームでの取り組みなどを発表している。	2ヶ月に1度、行っている。家族の参加も多く、家族間の交流の場にもなっている。年間の事故報告や、認知症勉強会なども行ってホームでの取り組みなどを発表している。	2ヶ月に1度開催され、多数の家族が参加をしている。事故報告や接遇等の話し合いを行うと共に、家族からの質問も多く、ホームの運営向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH協議会に委員として参加したり、書類は郵便ではなく届けるようにしている。わからない事がすぐに電話等で問い合わせしている	GH協議会に委員として参加したり、書類は郵便ではなく届けるようにしている。わからない事がすぐに電話等で問い合わせしている	介護保険制度やサービスについて不明な点の問い合わせをすることで、連携を密に行い、ホームの円滑な運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の玄関は夜間帯のみ施錠。現在は身体拘束にあたる方はいない。	施設の玄関は夜間帯のみ施錠。ホールへの入り口にはセンサーを設置しているが、施錠はせずに見守りを行う事で身体拘束なし。	現在、身体拘束は行われていない。カンファレンスや研修を通して、身体拘束を行わないケアについて職員の意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の年間スケジュールを組み、施設全体で取り組んでいる。「これは虐待にあたるのか」などの質問を包括などに尋ねて情報を共有している	勉強会の年間スケジュールを組み、施設全体で取り組んでいる。「これは虐待にあたるのか」などの質問を包括などに尋ねて情報を共有している		

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員から勉強会を開催して頂き、学ぶ機会を作っている	地域包括支援センターの職員から勉強会を開催して頂き、学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、またはケアマネージャーが必ず契約書を読み上げ、その都度不明な点を聞きながら行っている	管理者、またはケアマネージャーが必ず契約書を読み上げ、その都度不明な点を聞きながら行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置している。運営推進会議においても質問等をうけて報告も行っている。	玄関入口に意見箱を設置している。運営推進会議においても質問等をうけて報告も行っている。	本人や家族への積極的な声かけや、細目に家族と話すように努めている。出された意見については、その都度回答し、運営に活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見を出し合い改善に努めている	カンファレンスで意見を出し合い改善に努めている	毎月のカンファレンスで意向の把握を図っている。また、長く働いている職員も多く、上司へ個別に意見を伝える等して、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の個人面談を行い、希望などの聞き取りを行っている。同時に個人の目標設定を行っている。	年に2回の個人面談を行い、希望などの聞き取りを行っている。同時に個人の目標設定を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修への参加を促している。また、年間計画をたて全員が研修を受けることができるように取り組んでいる。	外部の研修への参加を促している。また、年間計画をたて全員が研修を受けることができるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、また委員としても活動をして他の施設の方との交流を図っている	GH協議会に参加し、また委員としても活動をして他の施設の方との交流を図っている		

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者、家族には入居前に施設見学を行ってもらい十分説明を行い安心して過ごせるような関係作りをしている	入居希望者、家族には入居前に施設見学を行ってもらい十分説明を行い安心して過ごせるような関係作りをしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密にとり、入居者の状況を報告し、不明な点を明らかにしケアの修正をおこなっている。	連絡を密にとり、入居者の状況を報告し、不明な点を明らかにしケアの修正をおこなっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の反応や行動を見極め柔軟に対応している	本人の反応や行動を見極め柔軟に対応している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、テーブルをふいたり生活を共にしているという雰囲気を作っている	洗濯物を畳んだり、テーブルをふいたり生活を共にしているという雰囲気を作っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状態の報告を行い、行事や会議への参加をすすめている	面会時には状態の報告を行い、行事や会議への参加をすすめている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同地区に居住している方などの交流はできている	ほとんどが本人と家族とのつながりで、なじみの場所などが無い状態	同地区からの入居者は、買い物や散歩を通して支援を行っている。近所の方等、馴染みの方が来訪された際は、気兼ねなく過ごしてもらえよう配慮している。馴染みの場所へ行く体制はとっているが、入居者が覚えておらず、訪れる機会が少ない状況である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴があるため会話出来ない事が多いが、スタッフが間に入り昔の話などをするようにしている	テーブルの座る位置などを考え利用者間でのコミュニケーションが図れるようにしている			

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になり、デイサービスに通っている方などは挨拶行っている。亡くなった年度には初盆に挨拶に伺っている	退所になり、デイサービスに通っている方などは挨拶行っている。亡くなった年度には初盆に挨拶に伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランは定期的に確認し、変化があればその都度修正をしている	ケアプランは定期的に確認し、変化があればその都度修正をしている	日常の会話を通して、把握出来る様に留意している。また、家族にも面会時に声かけを行ない、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話などを写真を見たりして聞いている。既往歴などの把握が難しいかたもある。	昔の話などを写真を見たりして聞いている。既往歴などの把握が難しいかたもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の観察を行い、スタッフ間で共有できるようにつとめている	状態の観察を行い、スタッフ間で共有できるようにつとめている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心にスタッフの意見や観察してことを聞き取り、計画に反映している。	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心にスタッフの意見や観察してことを聞き取り、計画に反映している。	本人・家族の意見やスタッフの意見、担当者のモニタリング等、ケアマネジャーが中心に取りまとめを行い、介護計画への反映に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、個人差があるのでカンファレンスで記録の書き方などの指導をしている	記録については、個人差があるのでカンファレンスで記録の書き方などの指導をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日などには、本人の好みの食事を外食したり、ドライブなどを行っている	誕生日などには、本人の好みの食事を外食したり、ドライブなどを行っている		

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などには、地域のボランティアの方を呼び、踊りや歌を聴く機会にしている	行事などには、地域のボランティアの方を呼び、踊りや歌を聴く機会にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関と連携している	関係医療機関と連携している。また、外部医師の往診もある	多くの入居者が、母体となる医療機関を受診しているが、元からの医療機関の受診を継続することもできる。希望の医療機関とその都度情報交換をする等、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の観察を行い、変化がある場合は担当医に連絡を行い指示を仰ぎ、悪化防止に努めている	状態の観察を行い、変化がある場合は担当医に連絡を行い指示を仰ぎ、悪化防止に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、毎日面会を行い病棟スタッフからも情報収集し、また、必要な情報も提供している	入院中は、毎日面会を行い病棟スタッフからも情報収集し、また、必要な情報も提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の取り組みや家族の希望を入居者が元気なうちから少しずつ説明をおこなっている。看取りの希望にもこたえる事ができている	急変時の取り組みや家族の希望を入居者が元気なうちから少しずつ説明をおこなっている。看取りの希望にもこたえる事ができている	入所する際に、重度化や終末期支援の方針について説明を行っている。また、関係医療機関と連携を密にとれる体制があり、本人や家族の意向の変化にも柔軟な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の講習を年に1度、消防署の協力を得て行っている	心肺蘇生法の講習を年に1度、消防署の協力を得て行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。また、オムツなどの備蓄を進めている。地域の協力体制はまだとれていない	年に2回、避難訓練を行っている。また、オムツなどの備蓄を進めている。地域の協力体制はまだとれていない	年に2回の避難訓練を行っている。火災だけではなく、水害等に対応する非常食やオムツ等の備蓄品を整えている。しかし、避難時などの地域との連携は未整備である。	地域と交流を図り理解を得ることで、災害時の避難誘導の支援体制や連携作りに期待したい。

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴などの際は特に気をつけている	トイレや入浴などの際は特に気をつけている	入浴は、プライバシーに配慮し、一人ひとり行っている。排泄の際、トイレ誘導時の声掛けや、職員間の排泄に関する報告をする時などの声の大きさに注意し、羞恥心や尊厳の配慮に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	決断しやすい質問の仕方をしたりしている。決断できなくてもあせらせないようにしている	決断しやすい質問の仕方をしたりしている。決断できなくてもあせらせないようにしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、体調や希望をききながら、一日の流れを大事にしている	ホームの日課はあるが、体調や希望をききながら、一日の流れを大事にしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあわせて衣類の選択の手伝いをしている	季節にあわせて衣類の選択の手伝いをしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の咀嚼にあわせて硬さをかえている。	入居者の咀嚼にあわせて硬さをかえている。	日常の会話を通して、入居者の嗜好について聞き取りを行ったり、できる範囲で、支度や片づけなど手伝ってもらっている。畑で出来た物を献立に取り入れて、季節感のある食事を提供するように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者と契約し、福祉メニューを提供している。一律にせず、利用者にあわせたボリュームにして、食欲をなくさないようにしている	業者と契約し、福祉メニューを提供している。一律にせず、利用者にあわせたボリュームにして、食欲をなくさないようにしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。残歯やは歯茎の状態にあわせ道具も変化させている	毎食後、口腔ケアを行っている。残歯やは歯茎の状態にあわせ道具も変化させている			

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄にこだわり、ケアをおこなっている	トイレでの排泄にこだわり、ケアをおこなっている	排泄の自立を目標にした支援に努めている。オムツの方はリハビリパンツへ、リハビリパンツの方は布パンツへの変更が出来る様に、個別の排泄パターンに応じた、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないようにしているが、利用者に合わせて使用している。排泄チェックを毎日行っている	出来るだけ薬に頼らないようにしているが、利用者に合わせて使用している。排泄チェックを毎日行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後と入浴介助している。本人の希望を聞きながら行っている	午前、午後と入浴介助している。本人の希望を聞きながら行っている	週に3回の入浴を行い、入浴のタイミングについては、本人の希望を聞いて入浴を行っている。本人が後日の入浴を希望すれば、希望に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の方もいるが眠剤を使わずに、本人にあわせ、昼間でも休めるようにしている	昼夜逆転の方もいるが眠剤を使わずに、本人にあわせ、昼間でも休めるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬などスタッフが分かるようにノートを活用している	臨時薬などスタッフが分かるようにノートを活用している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や、嗜好などを把握し、計画し実施している	趣味や、嗜好などを把握し、計画し実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望のかたには、納得するまで付いていくようにしている。家族に協力を得ながら外出など楽しんでいる	帰宅願望のかたには、納得するまで付いていくようにしている。家族に協力を得ながら外出など楽しんでいる	レクリエーションの計画を立て、買い物や外食等の支援を行っている。外出する際に、協力していただけるお店がある。また、家族が同行する事もあり、家族や地域の人々の協力を得ることができている。	

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもっているかたもいるが、基本は個人持ちをしていない	お金をもっているかたもいるが、基本は個人持ちをしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望で家に電話などしている	本人の希望で家に電話などしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは、時間帯に合わせ照明を落としたりしてゆったりする時間も設けている	ホールでは、時間帯に合わせ照明を落としたりしてゆったりする時間も設けている	カーテンや照明を調整し、適度な明るさの空間となっている。また、壁等に季節を感じる事の出来る装飾や木目調の内装で暖かみを感じられる等、心地よい空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置、座る場所などを工夫し、入居者同士でくつろげるようにしている	ソファの位置、座る場所などを工夫し、入居者同士でくつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた家具などを持ち込んでいただくようにしている	以前から使用していた家具などを持ち込んでいただくようにしている	本人の希望に応じて、居室への家具の持ち込みや配置を行う事が出来る。入居者の安心できる家具の配置に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子自走する、新聞をよむなど強制はせずに自由に過ごせるようにしている	車椅子自走する、新聞をよむなど強制はせずに自由に過ごせるようにしている		